

平成 30 年度入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

| | |
|---------|---|
| 受 検 番 号 | 番 |
|---------|---|

次の1から4までの問いに答えなさい。

- 1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。
- (1) 桜の花が咲く。 (2) 部屋を掃除する。
 (3) 舞台上上がる。 (4) 濃厚なスープ。
 (5) 時間を稼ぐ。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) ホームランをうつ。 (2) ヤツキヨクに行く。
 (3) 羊をホウボクする。 (4) 法律のセンモン家。
 (5) 心をフルい立たせる。

3 次の俳句を話題にした先生と生徒の会話について、(1)から(4)までの問いに答えなさい。

鐘つけば銀杏散るなり建長寺

夏目漱石

生徒 「この俳句の季語は何ですか。」

先生 「銀杏散るが季語ですよ。季語を詳しく調べたい時は『歳時記』という本を使うのが便利です。」

生徒 「わかりました。ところで、この俳句の作者は小説家の夏目漱石なんですね。」

先生 「その通りです。小説家としてよく知られています。が、俳句や漢詩も作っていますし、色々なテーマでコウエンを行うなど多方面で活躍した人物です。」

生徒 「様々な才能を持った人物だったのですね。そういえば、先生も俳句を作られるとお聞きしました。今度、先生の作品を(③)。」

先生 「いいですよ。(④)よかったら、あなたも一緒に俳句を作りませんか。」

(1) ① 銀杏散る と同じ季節を詠んだものはどれか。

- ア 菜の花のちりこぼれたる堤かな
 イ 独り碁や笹に粉雪のつもる日に
 ウ 頂上や殊に野菊の吹かれ居り
 エ 閑かさや岩にしみ入る蝉の声
- (2) ② コウエン と同じ漢字を用いるものはどれか。

瀧井孝作
 中勘助
 原石鼎
 松尾芭蕉

ア 家の近くのコウエンに遊びに行く。

イ 大学教授のコウエンを聴く。

ウ 自治体が文化事業をコウエンする。

エ 新人が主役をコウエンする。

(3) ③ ()に入る正しい敬語表現はどれか。

ア 見せていただけますか。

イ お見せしてもらえますか。

ウ ご覧になってもいいですか。

エ 拝見なさってもいいでしょうか。

(4) ④ ()に入る副詞として適切なものはどれか。

ア まるで イ ふと ウ もっと エ もし

4 次の行書のうち、「花」と同じ部首の漢字はどれか。

ア 栄 イ 雲 ウ 笑 エ 葉

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

昔、西八条の舎人なりける翁、賀茂祭の日、一条東洞院の辺に、

ここは翁が見物せむずる所なり
人、寄るべからず

といふ札を、暁より立てたりければ、人、かの翁が所為とは知らず、「陽成院、物御覽せむとて立てられたるなめり。」とて、人寄りざりけるほどに、時になりて、この翁、浅葱かみしも着たり。扇ひらきつかひて、したり顔なる気色にて、物を見けり。人々、目をたてけり。

陽成院、このことを聞こしめして、件の翁を召して、院司にて問はせられければ、「歳八十になりて、見物の志、さらに侍らぬが、今年、孫にて候ふ男の、内蔵寮の小使にて、祭を渡り候ふが、あまりに見まほしくて、ただ見候はむには、人に踏み殺されぬべくおぼえて、やすく見候はむために、札をば立てて侍る。ただし、院の御覽せむ由は、まづたく書き候はず。」と申しければ、「さもあること」とて、御沙汰なくて、ゆりにけり。

これ、肝太きわざなれども、かなしく支度しえたりけるこそ、をかしけれ。

(二十訓抄)から

- (注1) 西八条は平安京の地名。一条東洞院も同様。
(注2) 舎人、貴人の家に仕え、雑用に従事する者。
(注3) 陽成院、陽成天皇のこと。この時は退位し上皇であった。
(注4) 浅葱かみしも、上衣と袴が同じ薄い藍色の服。
(注5) 院司、上皇の御所に仕える役人。
(注6) 内蔵寮、宮中の財物を管理する役所。
(注7) ゆりにけり、許された。

1 ひらきつかひて、は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 立て、召し、見まほしく、申し、の中で、主語にあたる人物が異なるものはどれか。

3 人々、目をたてけり、とあるが、人々が注目したのはなぜか。その理由を説明した次の文の空欄に当てはまるように、十五字以内の現代語で書きなさい。

人々が立て札を見て と考えたことに対して、予想が外れたから。

4 やすく見候はむため、の意味として、最も適切なものはどれか。

- A 祭の行列を安全な状態で見物するため。
I 祭の行列を家族と一緒に見物するため。
U 祭の行列を人目を避けて見物するため。
エ 祭の行列を安い場所代で見物するため。

5 本文に描かれている翁はどのような人物か。

- A 何事にも驚いたりもの怖じしたりせず行動できるが、涙もろく情け深い人物。
I 場に応じて機転を利かせた判断ができ、周囲の人々のために行動する人物。
U 周囲が思いも寄らない行動をとることもあるが、自分の気持ちに正直な人物。
エ たとえ権力者に逆らうことになっても、信念を貫いて行動する人物。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑥は形式段落の番号である。

- ① そもそも時間というものは、ビッグ・バンで宇宙が生まれたときに、空間とともに**はじめ**まったものだそうだが、すくなくとも人間が経験で知っているかぎりの世界では、時間には**はじめ**もなく、**終わり**もない。これがほんとうの最初の年、最初の月、最初の日というものは、人間には知られてない。□、そこから数えれば「なん番めの年」になり、「なん番めの月」になり、「なん番めの日」になる、と言えるような、わかりやすい目安になる時点は、自然界には存在しない。
- ② そういうわけで、たくさん人間が寄り集まって、どの時点から数えることにしようかと協定するか、だれかに適当に決めてもらうしかない。こうした取り決めが「クロノロジー(年代)」というものである。
- ③ 時間というものは、そういうふうに、きわめて人工的なばかりかたしかできない。自然界には、絶対的な時間の経過を示すものは、なにもない。
- ④ だから、時計とか暦とかのない社会では、時間の経過を決めるのは人間の気持ちによる。人が「いまだ」と思ったときが「そのとき」だというのが、そうした社会の時間の感覚である。こうした時間の感覚は、絶対的な時間とか、時刻とかに置きかえることはできない。
- ア
- ⑤ たとえば、いまでもオーストラリアのアボリジニの社会では、お祭りの**はじまる時刻**は、**夜**ということぐら**いは決ま**っているが、なん時ちようどには**はじまる**などという**ことは、だれも申し合**わせていない。祭りの場に集まってがやがややっているうちに、なんとなくみんなが**気分が高揚**してきて、そろそろだ**な**と思ったときがそのとき**だ**となって、お祭りが**はじまる**というの**がふつう**だ。

- ⑥ われわれ現代人の感覚では、時間というものは、無限の過去からは**はじま**って、規則正しくチクタクチクタクと、同じ歩調で現在に**むか**って進行してきて、現在からは、無限の未来に**むか**って、チクタクチクタクと同じ歩調で一直線に進行していくものだ、**と**なっている。
- イ
- ⑦ こうした時間の感覚は、決して自然なものではなくて、文明が創り出したものだ。明日という日が来るかどうかは、ほんとうを言うと、だれにもわからない。そういう時間の感覚のほうが自然だ。というわけで、人間にとっては、時間は取り扱いにくいものだが、その取り扱いにくい時間がかかわってくるのが歴史なのである。
- ⑧ 歴史は、世界を空間だけに沿って見るものではなくて、時間に沿って見るものだ。その時間をどう認識するかは、人間の集団ごとに、**ひじょうに違**う。
- ウ
- ⑨ 去年のことでも、三年まえのことでも、百年まえのことでも、ただ「**むかし**」というだけで区別しない人たちもいれば、今日の午前に起こった事件と、あとの午後に起こった事件の時間の差を問題にして、区別する人たちもいる。時間の認識のしかたは文化なのである。
- ⑩ 時間の観念は文化だから、文明によって、社会によって、おおいに違**う**。また違**って当然**だ。だから、時間の管理のしかたも、文明によって違**ってくる**。
- エ
- ⑪ 時間を一定不変の歩調で進行するものだと考えて、日・月・年に一連番号を振って、暦を作り、時間軸に沿って起こる事件を暦によって管理して、記録にとどめるとい**う技術は、きわめて高度**に発達した技術であ**って、人類が自然に持**っているものではない。

⑫ 時間と空間の両方にまたがって、人間の世界を説明する歴史というものも、自然界にはじめから存在するものではなくて、文化の領分に属するものである。歴史は文化であり、人間の集団によつて文化は違うから、集団ごとに、それぞれ「これが歴史だ」というものができ、ほかの集団が「これが歴史だ」と主張するものと違うということも起こりうる。

⑬ しかも、暦を作つて時間を管理すること、記録をとることだけでは、歴史が成立するのに十分な条件にはならない。

⑭ 歴史の成立には、もう一つ、ひじょうに重要な条件がある。それは、事件と事件の間には因果関係があるという感覚だ。これこれこういう事件は、時間ではそのまえにあったこれこれこういう事件の結果として、あるいはその影響で、起こつたというふうに考える。

⑮ これは、この世界で起こる事件は、それぞれ関連がある、あるいはあるはずだと考えることだ。こういう考えかたは、現代人、ことに日本人のあいだでは、ごくあたりまえの考えかただけけれども、実は世界のなかでは、人類のなかでは、どうも少数派の感じかた、考えかたらしい。

⑯ ここで念を押すと、直進する時間の観念と、時間を管理する技術と、文字で記録をつくる技術と、ものごとの因果関係の思想の四つがそろふことが、歴史が成立するための前提条件である。言いかえれば、こういう条件のないところには、本書で問題にしている、比喩として使うのではない、厳密な意味の「歴史」は成立しえないということになる。

(岡田英弘「歴史とはなにか」から)

1 に入る語として適切なものはどれか。

- ア しかし
イ ところで
ウ 言いかえれば
エ さらに

2 きわめて人工的なはかりかたしかできない。とあるが、筆者がこのように言うのはなぜか。二十五字以内で書きなさい。

3 本文中の ア エ のいずれかに、次の一文が入る。最も適切な位置はどれか。

それ人間本来の、時間の自然な感じかただ。

4 段落の働きを説明したものととして、最も適切なものはどれか。

- ア ⑦段落は、それまでの内容をまとめ、主題へと導いている。
イ ⑨段落は、具体例を列挙し、仮説を裏付けようとしている。
ウ ⑬段落は、前段落までを総括し、独自の見解を述べている。
エ ⑮段落は、例外的な場合に触れ、新たな論を展開している。

5 ② 時間を……と考えると とあるが、「時間が一定不変の歩調で進行する」と捉ええると、時間は歴史の成立にどのように関わっていると、筆者は考えているか。五十字以内で書きなさい。

6 本文の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれか。

- ア 日本と世界の文化の比較を通して、歴史の違いについて分析している。
イ 歴史について、時間に対する考え方を明確にした上で考察している。
ウ 人間の心理と関連付けながら、歴史の捉え方について検討している。
エ 歴史という概念について、物理学的な知見に基づいて説明している。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

十九歳の「私」は、「先生」と呼ばれる老人(横江さん)の家でホームヘルパーとして働いている。「先生」の孫である「隼」は、「私」と中学時代の同級生である。

この頃の先生は一度深く眠って目を覚ますと、正体をなくしていることが多かった。隼もそれを恐れているのだろう。隣でじつと先生を見ていた。黙って、口を一文字に結んで。何を考えているのかわからないけれど、隼にはあまり心配しすぎないでほしい。まわりの私たちの気持ちに陰りがあれば、それが先生の眠りに映るような気がした。

(1) 「紅茶がいいな。」

私がいようと、隼は笑顔になつてうなずいた。

「わかった。ダンシングだな。うんとおいしいのを淹れるよ。」

ダンシングでもジャンピングでもスイミングでもかまわない。

葉っぱがポットのお湯の中でゆうゆうと動きまわって気持ちよく開けばいいってことだ。そのイメージがあれば、言葉はなんだっていいのだ。

「あ、じいちゃん笑ってる。」

見ると、先生はソファで目を閉じてほんのりと微笑んでいた。

眠っていても、おいしい紅茶という言葉が耳に入って自然に笑顔になったのだろうか。もしかしたら、今このひと続きの部屋を満たす和やかな空気が気持ちよくて笑ったのかもしれない。

「元気で楽しかった頃の夢見てるんじゃないかな。」

小さな声で隼はいった。

「だとしたら、いやだな。」

聞こえなかつたふりをして、お皿洗いに戻った。いやなことなんか考えなければいい。

「夢の中では身体も元気で頭もぼけてなくて、けど目を覚ました途端に現実を突きつけられるなんて、悲しいじゃないか。」

「隼ってさ。」

流しの前から振り返らずにいい返す。左手に小皿、右手にスポンジを持って。

(2) 「ちよつとばかだよね。」

それから蛇口を捻(ひね)って水を出す。私は悲しくない。身体が不自由になって、頭が思うように働かなくなっても、心は残っている。そんなのはあたりまえだ。先生は先生だ。あんなに大事に思っていた隼をもしも思い出せなくなっても、ときどきは自分のこともわからなくなっても、先生の大事なものは先生の中に灯っている。

「ごめん。」

小さな男の子みたいな声だった。隼がうつむいていた。

「謝ることないよ。」

水を止めて、お皿を水切りかごに立てる。それから隼のほうに向き直る。

「隼は悲しいんだから。謝ることはないよ。」

「そういいながら、やっぱり少し腹を立てている。」

「俺、悲しいって口に出したの、初めてかもしれない。」

「そうなんだ。」

私もだ。私も生まれてから今まで一度も悲しいという言葉を実際に使ったことはなかったと思う。太いクレヨンで塗りたいくつ黒みみたいな感情は、悲しいという単語ひとつに肩代わりさせてもはみ出してしまふ。

物差しを当てようとするのは楽(3)になりたいたから。測って安心したいからだ。意味を探す。価値を見出す。もしくは、意味のなさ、価値のなさを見つける。そしてもう、次を見ない。そこに留まってしまう。悲しいっていったら、悲しい以外の何物でもなくなってしまう。

「悲しいって、いつてみたくなかったんだ。なんだか渦潮みたいにさ、ごうごう鳴ってるんだ、胸のこの辺で。」

隼は 鳩尾の辺りを手でさすった。

「でも、悲しいは違った。口に出してみてもわかった。悲しいんじゃない。うまく言葉にできない。じいちゃんのこと。ただ——。」

そこで言葉を切つて、しばらく真剣な視線を宙にさまよわせた。その辺りに溶けている言葉を必死に捕まえようとしているみたいだった。

(4) 「あんたがいてくれてよかった。」

ソファの先生が、また微笑んだように見えた。

(宮下奈都「窓の向こうのガーシュウィン」から)

1 紅茶がいいな とあるが、このように言った「私」の思いとして、最も適切なものはどれか。

ア 「私」を心配している「隼」に対してあえて明るく振る舞って、迷惑をかけまいとする思い。

イ 「隼」に紅茶を淹れてもらうことで、「先生」のことを忘れてお茶を楽しみたいという思い。

ウ 「先生」を心配する「隼」の気持ちを解きほぐして、場の雰囲気をも明るくしたいという思い。

エ 「先生」や「隼」に対して気遣う必要はなく、自分の思う通りに行動していいこうという思い。

2 ちよつとばかだよ とあるが、「私」がこのとき、「隼」に気付かせたかったのはどのようなことか。四十五字以内で書きなさい。

3 楽になりたい とあるが、「私」は「隼」のどのような行為を捉えて「楽になりたい」と判断したのか。二十五字以内で書きなさい。

4 に当てはまる語句として、最も適切なものはどれか。

ア 口を合わせて

イ 口をへの字に曲げて

ウ 口をはさんで

5 あんたがいてくれてよかった とあるが、「隼」はどのようなことを「よかった」と言っているのか。最も適切なものはどれか。

ア 祖父に言い出せずにいた真実を「私」が伝えてくれたこと。

イ 祖父に代わって、「私」が祖父の夢を実現してくれたこと。

ウ 祖父に対する言葉を「私」が認め、受け入れてくれたこと。

エ 祖父に対して抱いていた不安を「私」が軽くしてくれたこと。

6 本文の表現上の特徴を説明したものととして、最も適切なものはどれか。

ア 「私」の視点から日常の一場面を語りながら、「私」の心情を描写している。

イ 登場人物それぞれの視点から心情を語ることで、物語を重層的にしている。

ウ 擬態語や外来語を多用して、「隼」の複雑な心情を効果的に表現している。

エ 会話文の間に情景描写を挿入して、「先生」の心情の変化を描き出している。

5

海外の中学生があなたの学校を訪問することになった。その中学生たちの歓迎会では、グループごとに、日本について様々なテーマで紹介する予定である。あなたなら次の候補の中からどれを選んで、グループのメンバーに提案するか。選んだ理由も含め、後の《注意》に従ってあなたの考えを書きなさい。

候補

- ・ 食文化
- ・ 映像メディア
- ・ 科学技術
- ・ 自然環境
- ・ 年中行事

《注意》

- ・ 右の候補の中から一つを選び、国語解答用紙②の決められた欄に書くこと。
- ・ 提案したいテーマについて具体例を挙げながら書くこと。
- ・ 国語解答用紙②に二百四十字以上三百字以内で書くこと。